

WORK EMOTION T7R

無駄のないシャープさと
躍動的な足長感をバラン

ワークというホイールメーカーは、高い支持を得ている定番モデルに最新のトレンドとテクノロジーを取り入れ、新たなセンスを生み出すことにかけては、ワークエモーションシリーズでは、CRiKaの血統を受け継ぐCR極の大ヒットが好例だ。

このT7Rも、かつて圧倒的な人気を博したST7をモチーフに正常進化をさせた、実質的な後継モデル。スポークの長さを強調したリムオーバーの7本スポークデザインは、伸びやかで躍動感を強調する。ただし、15・16インチのKカーサイズでダイナミックな大径感を表現するには限界がある。そこで4H・110モデル専用でセンターパートの設計を行ない、無駄を省いて開口部を限りまで小径化するに成功。限られたスペースの中でスポークの長さを最大限に確保し、伸びやかさを増幅させているのだ。

近年は、ビンキュアルでいかに視覚感をアピールするかも、スポーツホイールの重要な要素のひとつになっている。T7Rでも、スポークサイドにリブを設けたようなステップ形状のデザインを用いることで、強度を十分に確保しながら天面のスリム化を実現。駆動軸カンチレバー

イアアップを図り、よりシャープな印象を与えている。さらにデザイン上の自由が制限される小径サイズにおいて、大径モデルと遜色ないほど、高いつくり込みを実現するため、ナットホールにも配慮するエアスクープにも強くこだわっている。本来は放熱性を高めるためのものであるが、7本という奇数のスポーク数を、偶数の4ホールをデザイン的にバランスさせる役割を担っているのだ。



スポーク下面にリブを付したステップ形状をスポークサイドに採用。十分なスポーク強度を確保しながら、スポーク天面のスリム化に成功。全体的にシャープさが加わった



Kカーへの装着を考慮した15・16インチでは4H・100専用デザインと割り切り、極限までセンターホールのシェイプアップを図り、コンパクトに設計している



T7Rではオプション設定となるが、アクセントツールとしてセンターキャップを組み合わせれば、雰囲気がガラリと変わる。フラット/ハイの各タイプに3色ずつ用意される



リムオーバーのディスクデザインとコンパクトなセンターキャップを組み合わせて、スポークの長さを強調。小径モデルでも足長感をアピールすれば、のびやかさを表現できる



